

大会名 Competition	第39回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-103	Year Month Day Time 2026 年 5 月 3 日 14 : 00
場所 Place	NODENアリーナ(能代総合体育館)

発行：能代市バスケットボール協会  
http://ncup.snowland.net



チームA	チームB
桜 丘	開志国際
76 ●	101 ○
( 21 1st 28 16 2nd 25 21 3rd 24 18 4th 24 0 T )	

主審:Crew chief  
村上 智志 山形  
副審:Umpire  
石郷岡 いつか 秋田  
齋藤 文弥 福島  
テーブルオフィシャル:Table officials  
能代科学技術高校

No.	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
1	× 竹内 光一	cap	10	1	2	3	4
4	／ 森 蒼心		3	1	0	0	0
5	／ 波多野 碧音		0	0	0	0	0
42	× モハメド マー		29	0	12	5	1
7	／ ブリス レキナダ		2	0	1	0	0
11	／ 小川 泰乃丞		3	1	0	0	0
13	× 竹内 海吏		11	1	4	0	5
16	水野 良太郎		-	-	-	-	0
18	／ 森 奎都		2	0	1	0	0
19	佐藤 隼斗		-	-	-	-	0
22	× 平澤 恵太		0	0	0	0	0
23	／ 尾崎 夏希		2	0	1	0	1
24	万江 駿汰		-	-	-	-	0
31	／ 竹内 海吏		2	0	1	0	0
32	× 竹本 虹輝		8	0	3	2	1
33	／ 大允 大允		-	0	3	2	1
34	／ 水野 誠太郎		2	-	-	-	0
51	／ 大井 佑悟		2	-	-	-	0
コーチ	水越 悠太						0
Aコーチ	久保 泰斗						0
合計			76	4	28	12	13

No.	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	× 池田 楓真	cap	9	1	3	0	1
5	× 高橋 歩路		24	4	5	2	3
6	／ 大瀧 稜真		4	0	2	0	2
7	／ 北村 拓己		0	0	0	0	0
8	× 早野 剛		16	2	5	0	1
9	ジョーンズ 堅太		-	-	-	-	0
10	佐藤 海音		-	-	-	-	0
11	／ 佐藤 大征		5	1	1	0	0
12	× 恒岡 ケイマン		20	1	7	3	1
13	／ イヅ ケッド ラウング		14	2	3	2	1
14	× AJAK ALUONG AJAK ALUONG		4	0	1	2	2
15	村井 衛		-	-	-	-	0
16	／ 塩谷 空牙		0	0	0	0	3
17	／ 岩朝 ローマ		0	0	0	0	0
18	／ 堀内 遥		5	1	1	0	3
コーチ	富樫 英樹						0
Aコーチ	津野 祐樹						0
合計			101	12	28	9	17

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3Pポイントシュート 2P:2Pポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

Score ranking[Team]

1	29	38.16%	モハメド マー
2	11	14.47%	竹内 海吏
3	10	13.16%	竹内 光一

1	24	23.76%	高橋 歩路
2	20	19.80%	恒岡 ケイマン
3	16	15.84%	早野 剛

Score ranking[Game]

1	29	モハメド マー	桜 丘	2	24	高橋 歩路	開志国際	3	20	恒岡 ケイマン	開志国際
---	----	---------	-----	---	----	-------	------	---	----	---------	------

1Q、両校マンツーマンでスタート。開志国際#14アジャックのポストプレイからの得点で始まり、すぐさま桜丘#1竹内がバスケットカウントで返す。桜丘が決めると開志国際が速攻で返す展開が続き、開始3分で10-10の点の取り合いとなったが、開志国際のマンツーマンが機能し、桜丘はノーマークが作れずタフショットが続く。開志国際はコートを広く使い、速いパスワークで点数を重ねていく。開志国際#4池田の3Pが決まり15-25となったところでたまたま桜丘がタイムアウトを取る。タイムアウトからリズムを取り戻した桜丘は#13前田が会場を沸かせるダブルクラッチを決める。21-28で開志国際がリードで1Q終了。

2Q、開志国際の攻撃が止まらない。#12恒岡のダンクから始まり、速攻、3Pで得点を量産する。#13イヅの2本目の3Pが決まり23-40となったところで桜丘が前半2回目のタイムアウト。桜丘は守備から流れを取り戻そうとし、声を掛け合ったディフェンスで24秒オーバータイムを取る。桜丘は#1竹内が起点となり、ドライブからのアシストパスで点数を稼ぐ。しかし、開志国際も#11佐藤大征のブロックからのワンマン速攻が決まり37-53で2Q終了。

3Q、残り8:30で桜丘の主力となっていた#13前田が4回目のファウルで交代となる。桜丘はシュートがなかなか決まらないが、#42モハメドがリバウンドからのゴール下で点数を重ねる。対する開志国際は#5高橋が止まらない。3Qだけで3本の3Pを含む13点の大活躍。桜丘は#1竹内、#13前田がファウルトラブルで不在のなか、リバウンドを何度も取り、果敢に攻める。58-77で3Qが終了。

4Q、桜丘は逆転を狙うも、#13前田が5回目のファウルで退場となる。桜丘は、オフェンスは#42モハメドを起点とし、ディフェンスはフルコートマンツーマンで守る。開志国際は主力を下げて攻撃の質が落ちない。桜丘のフルコートマンツーマンを華麗なパスワークでかわし、得点を重ねる。最後まで攻撃を緩めず、76-101で開志国際が勝利した。